

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 4 年 7 月 20 日 (2022.7.20)

【国際公開番号】WO2018/200656

【公表番号】特表 2020-517686 (P2020-517686A)

【公表日】令和 2 年 6 月 18 日 (2020.6.18)

【出願番号】特願 2019-557833 (P2019-557833)

【国際特許分類】

A 6 1 K 39/39 (2006.01)

A 6 1 P 37/04 (2006.01)

A 6 1 K 39/145 (2006.01)

A 6 1 K 39/25 (2006.01)

A 6 1 K 39/002 (2006.01)

A 6 1 K 39/12 (2006.01)

A 6 1 K 39/02 (2006.01)

C 0 7 J 63/00 (2006.01)

10

【F I】

A 6 1 K 39/39

A 6 1 P 37/04

A 6 1 K 39/145

A 6 1 K 39/25

A 6 1 K 39/002

A 6 1 K 39/12

A 6 1 K 39/02

C 0 7 J 63/00

20

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 4 年 7 月 11 日 (2022.7.11)

【誤訳訂正 1】

30

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 9 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 9 9】

驚くべきことに、本発明の発明者は、一部の態様では Q S - 2 1 及び Q S - 7 などの他の Q S 抽出画分の合成類似物である本願の化合物が、有意なスタンドアローンのアジュバント活性、並びに高程度の耐用性及び / または低められた副作用を有することをここに見出した。これらの新規のアジュバント化合物は、天然の Q S - 2 1 と比べるとその製造の費用効果が高く、予防的及び治療的ワクチン接種プログラムでの使用でより安定しており、より効能が高くかつより毒性が低い。幾つかの態様は、予測される 1 0 0 0 m c g ヒト用投与量に近似する投与量でのマウスにおける薬理学及び毒学的研究において検出可能な毒性を持たない。幾つかの態様では、驚くべきことに、それらのアジュバント特性をなおも維持しながら完全に非溶血性である。これは一部は驚くべきことである。なぜならば、最初は、Q S - 2 1 毒性及び効力は、溶血現象と Q S - 2 1 に伴う他の細胞毒性とに関連すると考えられていたからである。本願の幾つかの態様は、Q S - 2 1 中のアシル鎖の不安定なエステル結合を非常に安定したアミド結合に置き換えて、その結果、Q S - 2 1 のアジュバント活性類似物となることによって、より大きな安定性及び小さな溶血活性を発揮する。幾つかの態様は、また、Q S - 2 1 と比べて簡素化された構造を有することで、合成 Q S - 2 1 と比べてより高い合成収率及び大きく減少した合成ステップ及び製造コスト

40

50

を為しつつも、アジュバント活性も保持する。

10

20

30

40

50